

<地域民主教育全国交流研究会・理論集会(2016年3月12～13日)>

武庫川女子大学(西宮)を会場にした集会、メインは今年12月23～25日に沖縄で開催される全国集会実行委員会現地からの報告でした。(名嘉正男氏の辺野古報告は紙面の都合で割愛します)

「カコモンてどんな病気？」

この研究会で報告される全国の教育状況にはいつも驚かされます。沖縄県民間教育研究所(沖民研)の長堂登志子所長は「沖縄の『学力』『貧困』問題」と題する報告で学力競争に翻弄される姿を資料をもとに詳しく話してくれました。

(1)朝も昼休みも放課後も補習

沖縄は放課後を利用した補習は週1回以上が78.1%(全国平均30.6%)、長期休業中1日以上の補習が90.4%(全国65.9%)の小学校で行われている。しかもある教諭は次のように言っている。

「学テ対策のため、通常の授業時間に過去問を解かせる取り組みをしており、授業進捗に遅れも出ている。授業で終わらなかった課題や学テ対策の宿題を休み時間にやる児童もいる。そんな状況でなぜこんなに順位が上がるのか」(『琉球新報』2014年8月26日 下線佐藤)

平成25年度の全国学力テスト・平均正答率で全国最下位となった沖縄の小学校では、このような補習体制で26年度には24位に「躍進」しました。(中学校では全国平均との差が初めて10ポイント以内に縮まったものの総合最下位でした。)

朝のHR前、業間休み、昼休み、掃除時間、放課後、そして通常の授業中にまで過去問で学テ対策をする取り組みは多くの小学生を精神的に追い込み、最近精神科を訪れる小学生が増えていると言います。彼らに医師が聞くと「カコモンが苦しくて…」「カコモンに悩まされて…」と答えるので、他の医師に「カコモンてどんな病気？」と尋ねたそうです。笑えない現実ですね。

(2)危機的な学校行事

補習や正規の授業を学テ対策に充てるなかで学校行事も縮小の一途をたどります。運動会は競技中心のプログラムへ、学習発表会は合唱会へと姿を変え、学習発表会は2年に一度と言う小学校も増えています。しかも練習や準備に要する期間は「2週間以内」「過度な装飾や演出は控える」という傾向です。様々な場で子ども達が活躍し、「成功体験」「感動体験」を持つことができなくなり、学テ対策としての学力向上一色に学校が染められてきています。

(3)疲労する教師達

沖縄では少人数学級を実施しているため、国の編成基準より毎年学級数が増加しています。他方では、県全体の教職員数は義務標準法の定数より毎年60名前後の減となっています。特別支援学校や事務職員、養護教諭、栄養職員が削減され、小学校の専科(音楽や理科など)教員が学級担任に充てられることで対応しており、結果として教職員の多忙化が進行しています。

長堂先生から沖縄の教育の現状を聞いていて、学テの順位を上げるためになぜここまでするのかという疑問を持ちました。こんなことを続ければ子どもも保護者も教師も皆が疲れはて、病んでしまうのは目に見えているのに。討論のなかである参加者が、「ひめゆりに動員された学徒も心から国のために働いた。そう思わせる教育が沖縄では戦時下に強力に推し進められた。」と発言していました。基地問題で行動を起こし、闘い続けている沖縄の政治状況と無縁ではないと思わざるをえません。

*以上の報告は沖教組那覇支部・沖民研・沖縄大学『平成26年度 補習実態調査から見えてきた全国学力テスト対策の実態』などを参考にしました。なお、割愛した名嘉氏報告で使われた現地作成のDVD(18分)も手に入れてきました。ご覧になりたい方は連絡をください。

地域民主教育全国交流研究会沖縄大会 案内(速報、未確定案)

日時 12月23日(祝)12時半～25日(日)13時

日程 12月23日(金)辺野古現地調査 沖縄県庁前からバスで 18時帰還 夜「若者広場」
12月24日(土) 9時 開会行事 沖縄大学

桜井前沖縄大学学長「辺野古新基地問題」

喜屋武 幸「米軍新基地建設問題は地域の生活と教育に何をもたらしたか」等

13時～16時半 分科会(子ども、学習、教師・学校、地域)

18時～20時 全国地酒持ち寄り大交流会

12月25日(日) 9時～12時 分科会

12時10分～13時 閉会集会

沖縄の地で、沖縄を肌で感じながら、沖縄と日本の教育を考え、語り合しましょう

* 毎日のように辺野古に通いゲート前で座り込んでいる長堂さん達は、愛知の高校生が見せてくれた元気な群舞に感動されたそうです。

<18歳選挙権、高校生の主権者教育続報>

研究所通信第16号で特集した表題に関して、その後様々な動きがあります。私は『生活教育』誌2016年3月号でこの問題について論じましたが、高校生の政治活動について高校に監視・取り締まりの役割を担わせることへの懸念を表明しました。

文科省は今年1月、「(生徒の政治活動は)教育目的達成の観点から必要かつ合理的な制約を受ける」との理由で容認しましたが、識者らからは「主権者教育の充実が求められるなか、政治的関心を育む機会を妨げかねない」などの批判的な指摘も出されていました。愛媛県教委は昨年12月、全県立高校の教頭らを対象に開いた主権者教育に関する研修会で、「政治的活動等に対する生徒指導に関する校則等の見直しについて」と題した文書を配布。その中で、**届け出を要する事項に「選挙運動や政治的活動への参加」を追加し、1週間前までの届け出を求める校則変更例**を示しました。全県下対象の届け出制の動きは初めてです。他方、朝日新聞の聞き取り調査では「届け出は不要」と決めていたのは6自治体(宮城、愛知、香川各県、大阪府、仙台市、堺市)です。

テレビなどでは各選挙管理委員会が高校で行う「出前授業」の様子を報道していますが、主に投票用紙や投票箱、記入例などの内容が多いように思われます。また、甲冑に身を固めた戦国武将が立候補者を演じ、石田光成と徳川家康に高校生が投票し光成が天下を制したという報道もあります。選挙に関心を持たせるための取り組みなのですが、何か違和感を覚えてしまいます。

6月19日、つまり**改正公職選挙法施行日**には愛知の高校生たちが自分達の要求や訴えをアピールするパレードが計画されています。この日は全国の高校生も動きます。「模擬的」内容ではなく、1億円募金や震災募金、自転車ピースリレーなどで「現実的」な問題関心を持ち、行動してきた高校生達のパレードを励まし、未来を共に創るパートナーとして参加したいと思っています。

<制服の着こなしに関する生徒の要望>

2月26日「学校づくりフォーラム」では制服の着こなしに関する要望が生徒から出されました。生徒アンケートをもとにした要望でしたので、関係する先生方で検討されていることと思います。制服が議題になるというので事前学習をして、本校の制服の価格などを調べてみました。愛知黎明に校名変更した時に新しくなった制服、私は気に入っています。知人の弥富高校OB父母も「看護科の新しい制服、良いよね。」と言っていました。でも価格表を見て驚きました。女子のハイソックス3足組で2000円、ブラウス・シャツが1枚4400円。3足組で980円の靴下と1枚980～1980円のカッターシャツを愛用している私とはえらい違いです。公立中学校に入学が決まった母親が制服(ブレザー)や体育服、指定靴などで7万円もかかることを嘆く記事がネットにありました。靴下やシャツのような消耗品は保護者の負担の面から改善できないか、と行ってしまいました。